

猿ヶ島からの初日
(撮影 阿部会員)

令和4年1月号 Vol. 213
(2022年)

発行：令和4年1月13日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

<年頭のあいさつ>

あつぎ観光ボランティアガイド協会 会長 森島 誠

新年を祝しご挨拶申し上げます。

日頃より皆様のご支援ご鞭撻を頂き、当会の活動が行われておりますことにお礼申し上げます。

一昨年・昨年と2年続けて新型コロナ流行の影響で、計画した活動が十分できなかったことが残念でなりません。また、新型コロナで影響を受けた方々にはお見舞い申し上げます。一時は下火になったコロナの流行も新しい型の流行の兆しが見られ先行きが見通せない情勢になっています。

当会の活動では1月20日に、かながわガイド協議会訪問ガイド研修の担当団体として、“飯山の歴史を訪ねて”に参加する県内ガイドの皆さんを案内する予定があり、是非とも成功をさせたいと願っています。また今年度残りの3月までは企画ガイドを徐々に実施する計画をしております。情勢の変化を見ながらではありますが本来の活動に少しでも近づけたいと思います。新年度からは、新たな計画のもと従来活動を再開したいと願っています。

ボランティアの原点に戻り、厚木市を皆さんに紹介する活動に努めます。当会の直面する最大の懸念は、会員数の減少が挙げられます。このような状況に対処するには会員全員で活動することにより、少しずつ発展につながることを確信しています。

皆様のご健勝ご活躍とご発展を願って挨拶に代えさせていただきます。



<県西観ボラ「合同研修・交流会」に参加して>

行事区分：合同研修交流会（神奈川県西地区観光ボランティアガイド協会）

日 時：11月25日（木） 10：00～14：40

場 所：南足柄市大雄山

参加者：会員3名

「南足柄市観光ボランティアガイドの会」の担当で、天狗伝説で有名な開創 600 有余年の曹洞宗の古刹「大雄山最乗寺」で開催されました。当日はコロナ禍の影響で参加者数の制限もあり当会からは会長等3名が参加しました。

《午前の部：ハイキング》

午前は参加者 23 名が 4 班に分かれ南足柄市観ボラさんのガイドで大雄山駅前から最乗



寺前迄約 4 キロをハイキング、最初、市内古い町並みが残る坂道の古道 1 キロ程を歩き、南足柄神社を起点に最乗寺境内へと続く約 3 キロの登り坂の参道に入りました。そこから樹齢 3 百～5 百年と云われる大小 17 万本の杉木立が鬱蒼と繁る中を 1 丁目から 28 丁目迄の道のりは道標と灯籠を兼ねた石塔碑に迎えられ、将に天狗が現れそうな深山幽谷の趣を味わいながらの山登りでしたが、通常石ころや木の根っこが多い山道もチップを土に混ぜて整備されており、足裏の負担も少

なく高齢者にも優しい配慮が為されており流石道了尊の御利益かと感謝しながら歩きました。また万が一の途中落伍者の為に担当観ボラさんが参道そばを通る車道に自家用車を待機させてゴールまで送り届ける周到的な用意まで為されていた配慮にも感心致しました。

《午後の部：大雄山最乗寺見学》

午後は会長と役員の名は会議出席で、私を含む他の参加者は 130 町歩と云う広大な敷地に堂宇 30 余が立ち並ぶ最乗寺境内の見学が組まれており、その内 10 ヲ所程を私は地元ガイドさんに 1 対 1 の案内を受ける幸運にも恵まれました。本堂では門主様が読経される豪華な天蓋の真下からご本尊釈迦牟尼仏を拝んだ後、座禅道場や道了尊の天狗化身像、大天狗・小天狗像、そして重さ約 4 トンもある天狗の履いた（？）高下駄等々を懇切丁寧にガイドして頂きました。唯、時間の都合で道了尊の生まれ変わりと称される十一面観音菩薩様が安置されている奥の院（石段 354 段）を参詣出来なかったのが心残りでしたが、他にも観ずに素通りした堂塔も多く、次回の再訪を楽しみにと思い解散場所のバス停で会議参加者と合流して帰途につきました。

綿密な準備をして迎えて頂いた「南足柄市観ボラ」の皆さん、そして個人ガイドをして頂いた「U さん」、素敵なガイド本当に有難うございました。大変参考になりました。

（山田 記）

<飯山観音・飯山白山森林公園の紅葉鑑賞>

行事区分：会員研修（歴史探訪&ハイキング）

日 時：11月28日（日） 9：45～13：50

場 所：飯山観音～桜山～白山～飯山観音

参加者：会員6名

「飯山寺 たちそめしより つきせぬは いりあいひびく 松風の音」
の御詠歌がうたわれる坂東三十三観音霊場第六番札所（飯山観音長谷寺）。

晩秋のキリリとした空気と澄んだ青空の元、飯山観音・飯山白山森林公園にて会員研修が行われました。



9時45分資料を手に幕末期の庫裡橋の写真から当時に想いを馳せつつ研修前半の飯山観音へ。最初に向かった昔の競馬場の面影を残すさくらの広場は、着々と工事が進んでいました。そこから旧山門の一部を脚門として残した仁王門、その先の大きなイヌマキ、そしてさらに階段を登り正面に凜と立つ観音堂や鐘楼など、境内の一つひとつを見て回りました。

研修後半は飯山白山森林公園の紅葉鑑賞です。ひんやりとした空気と深い木々に覆われたハイキングコース、足元に注意をしつつ向かった最初のもみじスポット・子どもの森では陽に照らされた色鮮やかなもみじに目を奪われます。そこから桜山方面に進み、イチョウの巨木をぐるりと回って向かった次のもみじスポットは、空が開けた斜面にあり、澄んだ青空に赤や黄色のもみじが美しく映えていました。

12時15分桜山にて昼食、その後は白山神社、さらに進み白山展望台へ。展望台では南に大島・利島、北東には筑波山まで、はっきり見ることが出来ました。



帰路は男坂を通り、13時50分に長谷寺へ戻り研修終了となりました。

「神奈川の景勝50選」に選ばれる飯山白山。この日も多くの方が訪れていますが、観ボラメンバーは勿論、来訪された方々もコロナ禍の対応をきちんとしつつ、晩秋の一日を楽しんでいました。
(毛利 記)

<手づくりコンニャク体験>

行事区分：懇親推進

日 時：12月1日（水） 9：00～15：30

場 所：上荻野地区

参加者：会員8名

当日、体験場所である会員宅に向かった早朝は、西から近づいてきた低気圧で大雨。大荒れだった天気も集合時間の9時にはうって変わって小春日和。こんにゃく芋は毒性が強く生で口にすると救急車とか？このような食材を、まあよくぞ先人が口にするまでの工程を考え出したものだ！かぼちゃの半分くらいのコンニャク芋を水の中ですりおろし放置す

ること4時間。なんとお土産7人分なのに原材料のコンニャク芋の量は思ったより少い。いよいよゴム手袋をはめ練り上げる、なんと苛性ソーダを水で溶き数回に分け垂らして練り上げる作業25分。



こんにゃくには苛性ソーダが入っているので血管に詰まった脂肪も洗い流せるかも?! うーむ、このこんにゃくはダイエットだけでなく究極の健康食材だ。勿論、練り上げる作業は体験を兼ねての交代制。待ち時間の間に燻製窯で焼き芋を焼いたり、南京豆をいったり、これらを食しながら、各自持参した思い思いの昼食。コロナで積みりにつもったストレスを大発散。

天も味方してくれた晴天のこんにゃく作り体験会。御世話になった会員ご夫妻「ありがとうございました。」

来年は皆さんも是非ご参加を。

(成田 記)

<かながわガイド協議会 合同研修会・交流会報告>

行事区分：外部研修

日 時：12月9日（木） 10：00～15：00

場 所：横浜西公会堂・よこはま道

参 加 者：会員2名

合同研修会・交流会は2年ぶりの開催であり、東海道ウォークガイドの会が担当で実施された。

午前の合同研修会は、19団体80名ほどの参加で、協議会会長・県観光課リーダーが挨拶し、講演は国際浮世絵学会理事 小池満紀子氏が「神奈川の浮世絵」と題して講演した。

様々な浮世絵の中にペルーに相撲を披露した浮世絵があった。力士は大関“小柳常吉”で、小柳常吉は、アミュールやあつぎ郷土博物館の浮世絵展で紹介されたことがあり、蓮生寺の玉垣寄進にも名を連ねている、馴染みの名前に興味深かった。



よこはま道

午後の交流会は担当団体の案内で、7班体制で各班8～9名 平沼橋西方の浅間下公園から関内の入り口の吉田橋まで6kmの行程であった。

よこはま道は、安政5年の横浜開港のために東海道と開港地を結ぶ新しい道として3ヶ月の突貫工事で完成した道です。左側に見えるみなとみらい地区が埋立て前の海であった頃の姿を思い浮かべながらの“よこはま道”の案内だった。平沼橋・大正4年建設の2代目横浜駅遺構の一部・岩亀小路・掃部山公園・神奈川奉行所跡・野毛坂切通し・

吉田橋など、近代化される前の“よこはま”に触れる興味深い案内を体験できた。

(森島誠 記)



バスを降り、冬近い恩曾川対岸の丘陵を見晴らす長い階段を下って行く間、灰色の箱ですっかり覆われて見えなくなった本禅寺本堂を眺め、一段一段と降りていきました。今日は、普段は見ることのできない文化財保存修理の様子が公開される日です。

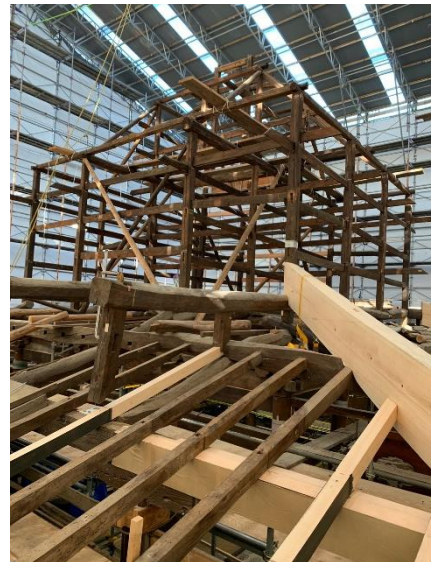
現場に到着すると直ぐにヘルメットと軍手を身に着け足場をくぐって構造物の中へ入りました。灰色の箱の中は仮設の足場、仮設の階段、仮設の床、そして殆ど壁も天井も床も無く、剥き出しの柱、剥き出しの桁や垂木や種々の部材などが周到的な緻密さで組み立てられていました。

寛永18年(1641)建立当時の姿をよく残し県指定重要文化財である本堂は、今や耐震補強工事を中心とした文化財保存修理の只中にあります。

保護された須弥壇の前の内陣にあたる場所には、4枚の棟札、3枚の天女と迦陵嚩伽(かりょうびんが)の欄間絵、本堂解体過程の写真のパネル等が展示されていました。

文化財関係の講師からは本禅寺本堂の歴史と所有文化財の話をお聞きしました。棟札の中に「大工 西谷奎兵衛(にしがいもくべえ)」と記された寛永18年の棟札がありました。「西谷」の名は、厚木市内の江戸時代前期から中期の寺院の棟札に頻りに登場する大工の名で、大きな勢力を誇った大工集団であったとされています。

欄間の絵と天井絵はそのまま残す為に、手をつけず殆ど覆われていましたが、天井絵は私達に見せる部分だけ覆いが取り除かれ、欄間絵は天女と迦陵嚩伽の三枚だけが下ろされているのでした。わずかに見える格天井の隅のツボから郷土の絵師井上五川の落款のある華麗な白牡丹が私達を見下ろしていました。



4枚の棟札

建築関係の講師から文化財建造物の保存修理は文化財の価値を損なわないように行うものだが、その文化財の価値をどこに置くかで修理の方針が決まるという話を聞きました。宮大工の棟梁からは解体する際には元に戻せるように全ての部材に符号をつけ、調査をし、その結果を基に修理を行うという話を聞きました。

目の前の丸柱につけられている三角や丸のマークは使用されていた古い釘の種類を区別するものだそうです。元の部材を置き換えた新しい部材には、「令和三年度修補」の焼印が押されていました。これは将来の修理に備える為のものだそうです。享保年間(1716~1735)に須弥壇を後ろへ移動した改造を示す跡が柱に刻まれているのも見ました。

仮設階段を上がると、格天井の上に出ました。見上げると寄棟造りの屋根を高く支える為の骨組みが大きなジャングルジムのよう立ち上がっていました。更に上を見上げると、その上は空ではなく灰色のパネルで囲まれた広い広い空間です。

時折、工事作業の音が響いてきましたが、現場は静かな日曜日でした。私達も含めて全てが灰色の箱の中の出来事なのが、私には面白く思われました。この保存修理工事は来年の7月（※）に竣工する予定です。

（※ 編集担当から：来年の7月とは2022年7月のことです）



最近の活動

日時	場所	内容	参加者
12月 9日	横浜西公会堂 ・よこはま道	かながわガイド協議会 合同研修会・交流会	会員 2名
12月11日	アミューあつぎ	定例会・勉強会	会員 19名
12月18日	飯山地区	訪問ガイド下見（1回目） 「飯山の歴史を訪ねて」	会員 11名
12月25日	七沢地区	厚木十二支巡り	会員 4名
1月 8日	アミューあつぎ	定例会・勉強会	会員 21名
1月 9日	東丹沢七沢観光案内所	訪問ガイド資料作成 「飯山の歴史を訪ねて」	会員 13名

編集後記

本禅寺（飯山）本堂保存修理見学の投稿がありました。1641年に建立されて、これだけ大掛かりな解体修理は初めてとのこと。かかる費用もさることながら、建立当時の姿を変えないようにいかに修理するかで宮大工さんが苦勞されている様子が見えがえ。これから300年位後になって、部材に付けられた「令和三年度修補」の焼印を見た人が「西暦になおすと何年だろうか？」と調べる姿を想像すると未来への夢が膨らみます。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 前澤 宣子